

富山県新湊市

本江東遺跡発掘調査概要

新湊市足洗東部土地区画整理事業に伴う発掘調査

1999年度

2000年3月

新湊市教育委員会

富山県新湊市

本江東遺跡発掘調査概要

新湊市足洗東部土地区画整理事業に伴う発掘調査

1999年度

2000年3月

新湊市教育委員会

序

新湊市本江は新湊市の東、富山市と接するところにあります。江戸時代には、打出本江村とよばれた集落の南を北陸街道が、北側の海岸沿いには浜街道が通っていました。本江は先賢たちにより、「本江八景」とうたわれる風光明媚な景勝の地が伝えられるなど、自然景観豊かなところでもあります。

本書は、本江足洗東部上地区調査事業に伴って行なった、本江東遺跡発掘調査の報告書です。調査では、奈良・平安時代、中世の遺構・遺物が検出され、この時期における人々の生活の営みが発見されました。当時の網の鍾なども出土しており、網漁が行われていたこともわかりました。

調査を行なった場所は、北に打出の浜を臨み、西にはかつて足洗潟が広がっていました。奈良時代、越中国に赴任した大伴家持が、この集落一帯の景勝の地を、舟で遊覧したことがあったかもしれません。

この報告書には不十分な点も多々あると思いますが、より多くの人に活用され、文化財保護の一助になりましたら幸いです。

終わりになりましたが、地元の方々をはじめ多大なご協力とご援助をいただきました関係者の方々に深く感謝申し上げます。

平成12年3月

新湊市教育委員会

教育長 糸岡栄吾

例　　言

- 1 本書は富山県新湊市本江地内に所在する本江東遺跡（203054:富山県遺跡番号）の発掘調査概要報告書である。
- 2 調査は本江足洗土地区画整理事業に先立ち、新湊市教育委員会が実施した。調査に当たっては、富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を受け指導と協力を得た。
- 3 調査事務所は新湊市教育委員会社会教育課に置き、社会教育課長 大代政幸が調査事務を統括した。また、調査に際して地元の方々をはじめ、富山県埋蔵文化財センター、本江足洗東部土地区画整理組合、北海工業株式会社、株式会社創和設計、アジア航測株式会社、株式会社エイ・テック、新湊市立東名小学校の協力を得た。記して謝意を表したい。
- 4 調査期間、調査面積は次のとおりである。
調査期間：平成11年9月28日～平成11年11月16日（実働26日）
調査面積：690㎢
- 5 発掘調査担当者は次のとおりである。
新湊市教育委員会 文化財保護主事 宗 磐子
富山県埋蔵文化財センター　〃　境 洋子
- 6 調査参加者は下記のとおりである。
(現地調査) (敬省略 五十音順)
石川みちゑ 石村むつみ 石槻須磨子 伊藤てる子 大森みさを 川村光子 中林シゲ 宮垣美智子
安川若子 我田君子
- 7 本書の作成は、下記の協力をうけて宗が行なった。
(室内整理) (敬省略 五十音順)
浦山みこと 楠井悦子 立野浩美 前田三津子
- 8 調査の実施、本書の作成などに際して、下記の方々から多大なご協力・ご指導をいただいた。記して謝意を表す。(敬省略 順不同)
久々忠義 岡本淳一郎
- 9 本書の土層の色調は、小山忠正・竹原秀雄編著1994『新版標準土色帖』に準拠している。
- 10 出土品及び、記録図面等は新湊市教育委員会が一括して保存・公開している。
- 11 本書の図面の表示は下記のとおりである。
 - (1) 遺物実測中のスクリーントーンの貼り込みは次のとおり表現した。
 須恵器  珠洲焼

目　　次

例　　言	
目　　次	
I はじめに.....	1
1 遺跡の位置と環境.....	2
2 調査に至る経緯と経過.....	2
(1) 遺跡の発見.....	2
(2) 分布調査.....	2
(3) 試掘調査.....	2
II 調査の概要.....	4
1 調査の方法.....	4
2 遺構・遺物.....	4
3 まとめ.....	6
表 図版遺物一覧	
写真図版	

図版

第1図 新湊市位置図
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/50,000)
第3図 調査区域図 (1/5,000)
第4図 調査区割図 (1/500)
第5図 遺構平面図(1) (1/80)
第6図 遺構平面図(2) (1/80)
第7図 遺構断面図(1) (1/40)
第8図 遺構断面図(2) (1/40)
第9図 遺物図(1) (1/3)
第10図 遺物図(2) (1/3)
第11図 遺物図(3) (1/3)
第12図 遺物図(4) (1/3)
第13図 遺物図(5) (1/3)
第14図 遺物図(6) (1/3)

I はじめに

1 遺跡の位置と環境

本江東遺跡は、新湊市本江に所在する。

遺跡は鍛冶川の右岸、神通川の左岸に位置し、砂質土と粘質土からなる沖積低地に立地する。標高は高いところで約1.5m、低いところで約0.9mである。現在、遺跡の西側は新湊市足洗、南側は同市本江、東側は富山市打出と接しており、北方約50mのところに海岸汀線がある。

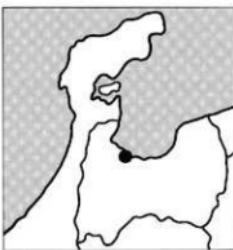
現在富山新港と姿をかえたかつての放生津潟は、中世にはかなり東方へ広がっていたが、近世初頭から新潟が進められた。

その結果、近世中頃放生津潟の東方に残された潟がかいつての足洗潟となった。潟地先の富山湾では、網漁がさかんであったという。本江東遺跡は、その東側に位置する。

周辺の遺跡をみると、弥生時代から古墳時代の遺跡では、南方約1.5kmの富山市との境界のところに、古墳時代前期の利波遺跡がある〔岡崎1964〕。また、すぐ南に位置する本江遺跡では、当該期の土器が採集されている。

古代の遺跡は、本江遺跡で土器や須恵器が採集されているが、実態は明らかになっていない。

中世の遺跡は、新湊市域においては、やはりこれまでのところ周辺で確認された遺跡はないが、東側の富山市では、四方荒谷遺跡で掘立柱建物跡などが確認されているほか、一帯の各遺跡で中世陶磁器が採集されている〔富山市教委1999〕。



第1図 新湊市位置図



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/50,000) 1 本江東遺跡 2 本江遺跡 3 利波遺跡 4 下久々江遺跡 5 打出遺跡
6 四方荒谷遺跡 7 下村加茂遺跡 8 今市遺跡 9 野出遺跡

2 調査に至る経緯と経過

1 遺跡の発見

本江東遺跡は、土地区画整理組合による新潟市足洗東部土地区画整理事業（以下「土地区画整理事業」とする）などに伴い実施された分布調査によって、新たに発見された遺跡である。

新潟市教育委員会が事業計画を把握したのは、平成9年度に市各関係課に対して行った、平成10年度以降の開発事業計画照会を機とする。当時、土地区画整理事業予定地内には周知の埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」とする）は知られていなかった。しかし本江地区では、それまでに系統だった分布調査を行った経験がないこと、また周辺には南側に弥生・古墳時代の遺跡として知られる利波遺跡があり、また東には富山市打出遺跡もあることなどから、事前に分布調査を実施する必要があると考えられた。

新潟市では目下、国庫補助を受けて市内の詳細分布調査事業をすすめているが、当初の区割り予定では、本江地区が対象となるのは平成12年度の予定であった。しかし、組合による土地区画整理事業の性格上、早急に対応する必要があり、詳細分布調査に先立ち分布調査を実施することとなった。

2 分布調査

本江地区的分布調査は、平成10年3月29日、5月24日、6月7日、6月28日の4回に分けて実施した。調査は新潟考古歴史サークルの有志によって行われた。

その結果、土地区画整理事業予定地区を含む、富山市打出と新潟市本江東との境界付近中心において、弥生時代から近世にかけての遺物が多く採集された（本江東遺跡）。さらに、周辺にも範囲を広げて踏査した結果、その南東においては弥生時代から古代にかけての遺物の散布が認められ（本江遺跡）、新たに2つの遺跡を発見するに至った。

発見された遺跡は、平成10年度に教育委員会の指定をうけて県に報告され、周知されることとなった。

その結果をうけて、新潟市教育委員会と富山県文化財課、市の担当課である新潟市都市開発課と協議を行い、土地区画整理事業の約5.6haを対象に、国庫補助金をうけて試掘調査を行うこととなった。

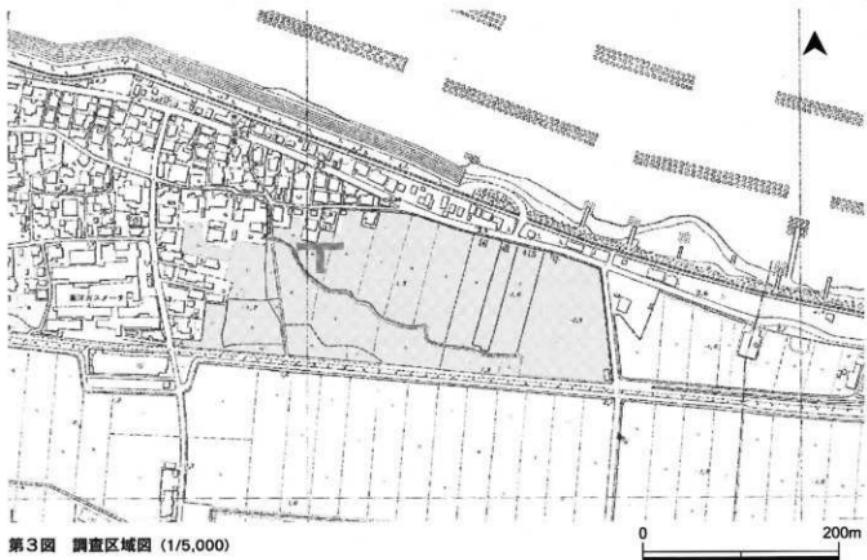
3 試掘調査

試掘調査の実施にあたっては、富山県文化財課、新潟市都市開発課と協議を行った。工事着手時期が平成11年度中に予定されていたため、急きょ富山県埋蔵文化財センター職員の派遣を依頼し調査を行うこととなった。なお試掘調査の詳細な経緯については、試掘調査報告（新潟市教委2000）に記している。

第1次試掘調査を平成11年6月8日から6月25日にかけて実施した。調査の結果、包含層は削平されて残っていないが、調査区ほぼ全域に弥生時代から近世にかけての遺物・遺構を確認した。

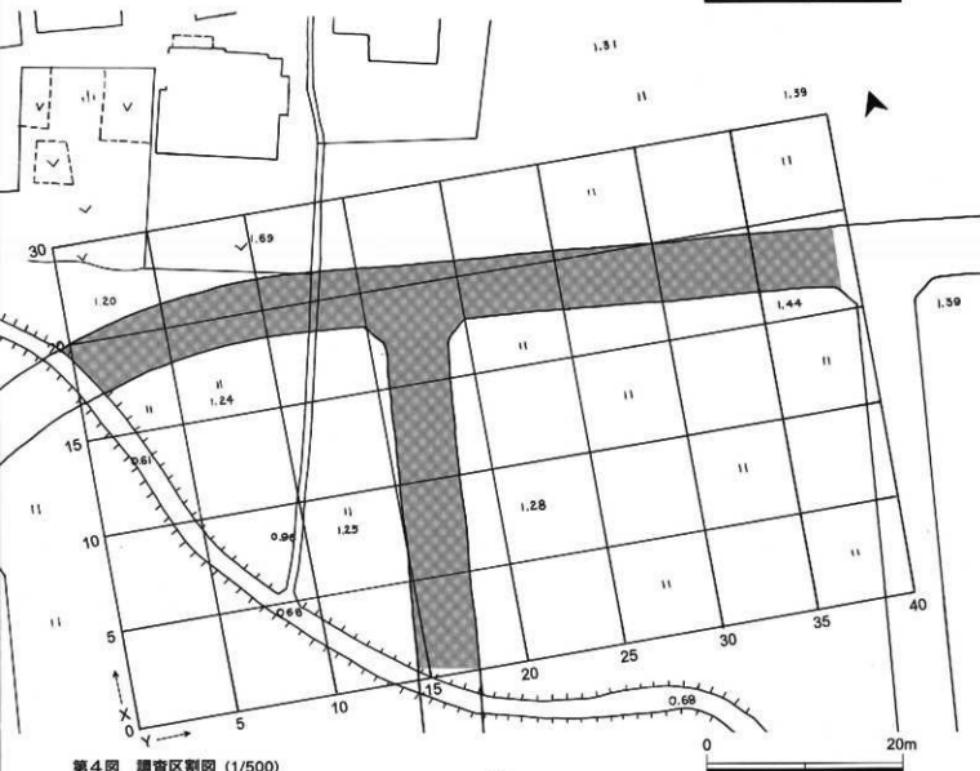
遺跡の内容を詳細に確認するため、第2次試掘調査を平成11年9月6日から9月22日にかけて実施した。調査の結果、道路造成予定部分のうち約700mにおいて、古代の遺構・遺物が集中して確認された。その地区的取り扱いについて再度協議をもつたが、工事計画の変更はできないことから、当該地区については、本調査を行い記録保存を図ることとなった。

本調査の発掘面積は690m²、調査期間は平成11年9月28日から平成11年11月16日（延べ26日）である。本調査の費用については、全面的に事業者の協力をいただいた。



第3図 調査区域図 (1/5,000)

0 200m



第4図 調査区割図 (1/500)

0 20m

II 調査の概要

1 調査の方法

調査は事前に重機により耕作土の除去を行い、その後に基準杭を打設した。グリッドは国家座標に合わせて設定し、南北方向をX軸、東西方向をY軸として4m毎に基準杭を設け、さらに、2m四方を小区画とした。なお、 $XO=83716.00 \cdot YO=984.00$ である。

基本層序は、第1層耕作土、第2層黒褐色砂、第3層黒褐色シルト質ローム、第4層オリーブ灰色粘土質ローム、第5層黒色粘土質ローム、第6層オリーブ粘土、第7層灰色砂質ローム地山面の標高は約1.0~1.2mで、東に向かって低くなる。

2 遺構・遺物

検出遺構・遺物の概要は次のとおりである。

溝

溝は、SD01~09までの9条が検出された。溝の方向には、北から約45~60°傾いて流れる溝と、ほぼ真北と平行に流れる溝の2通りがあるが、いずれも自然流路あるいは旧河川であり人為的な遺構ではない。出土遺物や遺構覆土などより、原則として前者の時期は古代、後者は中世に属するとみられる。

SD01 調査区中央より東側X22~23Y17~21に位置する。ほぼ真北に流れる部分から、Y18ラインで東側へS字に屈曲する水路である。規模は幅約160cm、深さ約30cmを測る。東へ屈曲する部分については、溝南側部分が調査区外になり、全体の規模は測定できない。ほぼ真北に流れる部分の遺構覆土は、暗褐色粘質土の単層であり、東へ屈曲する部分も同様の覆土であるため、両者は一体の溝とみられる。遺物は、9世紀前半を主体とする須恵器、土師器が出土している（第9図1~7）。SD01は規模、方向からは中世の溝と考えられるが、今回の調査では中世の遺物は出土していない。

SD02 調査区中央より南側X13~16Y16~19に位置する。北から約45°傾いて流れる溝である。規模は幅約60cm、深さ約20cmを測る。遺構覆土は黒褐色粘質土の単層である。遺物は、9世紀前半から中頃を主体とする須恵器、土師器が出土している（第9図8~17）。

SD03 調査区中央より南X9~11Y15~18に位置する。SD02から約10m南のところにあり、SD02とはほぼ平行に流れる。規模は、幅約60cm、深さ約30cmを測る。遺構覆土は黒褐色粘質土である。

遺物は、8世紀後半から9世紀中頃までの須恵器、土師器の古代の遺物のほか、南北朝期の珠洲焼が1点出土している（第10図18~28）。

SD04 調査区西側X18~20Y2~7に位置する。北から約60°傾いて流れる溝である。規模は、幅約60cm、深さ約20cmを測り、遺構覆土は黒褐色粘質土である。

SD05 調査区西側X18~20Y2~7に位置する。SD04に平行して流れしており、両者は北東部では一体の溝であるが、X19Y3付近で分岐する。規模は幅約50cm、深さ約10cm、遺構覆土は黒褐色粘質土である。遺物は、須恵器が出土している（第10図29~30）。

SD06 調査区西側X19Y5~7に位置する。SD04、SD05に平行して流れているが、上部はかなり削平されているとみられ、溝の両延長は確認できなかった。規模は幅約30cm、深さ約3cmと非常に浅い。遺物は、珠洲焼が出土している（第10図31）、遺構の時期、性格はSD04、SD05に伴うものとみている。

S D07 調査区西側X18~21Y9~10に位置する、ほぼ真北に流れる溝である。規模は幅約260cm、深さ約30cmを測る。透構覆土は、暗褐色粘質土、明黄褐色粘質土などから成る。遺物は9世紀の須恵器が主に出土しているが（第10図32~39）、図示した以外に珠洲焼壺も出土している。覆土の状態などから、古代の溝とは異なり、珠洲焼の時期である16世紀以降の溝と考えたい。

S D08 調査区東側X17~20Y31~34に位置する。ほぼ真北に流れる溝である。規模は幅約480cm、深さ約40cmを測り、今回の調査ではもっとも規模の大きい溝である。遺物は須恵器、土師器、土壙、中世土師器、瀬戸美濃などが出土しており（第10図40~45）、16世紀以降の溝と考える。

S D09 調査区東端X16~20Y41に位置する。規模は深さ約90cm、幅は東端が調査区外になり明らかでないが、これより東側において行なった試掘調査の結果から、数mのかなりの幅を測ると思われる。溝底に自然円礫が數点投棄される。2層の黒褐色砂上には、珠洲焼と土壙が含まれており、中世以前において形成されていた旧河川跡とみる。

土 坑

調査区中央から南半を中心に約40基を検出した。土坑の規模は径約10cm~20cmの小土坑が多いが、特に、S D02とS D03の間では、柱穴状の小土坑が集中して確認された。遺物を伴うものは、以下の13基である。

S K28 X18Y5に位置する。幅約110cm、深さ約20cmである。土師器小片が出土しているが、覆土である黒褐色砂質土から、比較的新しい土坑とみられる。

S K40 X22Y15に位置する。全体の約3/4は調査区外であり全体の規模は確認できていない。深さは約80cmで、井戸と考えられる。遺物は、須恵器、土師器が出土している（第12図84~89）。

S K02 X20Y14に位置する。幅約40cm、深さ約40cmで馬蹄形を呈する。須恵器が出土している。

S K39 X22Y17に位置する。北側は調査区外で、西側は試掘トレーンチにより搅乱され、全体の平面プランは明らかでない。深さは約10cmと浅いが、覆土は上層と下層に分けられる。上層の灰黄褐色粘質土には土器片、炭化物が混じる。下層の黄褐色粘質土には地山のブロックが混じっており、貼り床が広がっていたことも考えられる。遺物は須恵器、土師器が出土している（第12図70~83）。煤が付着した土師器甕も出土するなど、S K36と同様、カマドの性格をもつとみられる。

S K34 X18~19Y17に位置する。幅約160cm、深さ約10cmと浅い土坑であるが、暗褐色粘質土の覆土には、焼土、炭化物が目立つ。須恵器が出土している（第11図50~51）ほか、土師器小片も出土している。

S K15 X19Y19に位置する。幅約20cm、深さ12cmを測る柱穴状の土坑である。小破片のため図示していないが、土師器が出土している。

S K06 X17Y18に位置する。幅約25cm、深さ約10cmを測る。須恵器（第10図46）と土師器片が出土している。

S K07 X17Y17に位置する。幅約20cm、深さ約18cmを測る。遺物は、須恵器が出土している（第10図47~48）。また、火を受けている可能性のある自然円礫が2つ、土坑内部で確認されており、SK 36に伴う遺構と考えられる。

S K36 X16Y17に位置する。不整円形を呈し、規模は幅約170cm、深さ約25cmである。覆土は大きく上層と下層に分けられるが、上層は黒褐色粘質土で全体に土器片を含んでおり、下部分に炭化物が多くみられる。下層は暗褐色粘質土で、上部分を中心炭化物を含んでいる。全体に覆土には焼土、炭化物が目立ち、カマドとしての性格をもつ可能性がある。遺物は、須恵器、土師器が出土している（第11図52~69）。また、第

11図53の須恵器杯が唯一完形で下層の底部分から出土している。遺構の時期は出土遺物から、8世紀末から9世紀中頃に所属するとみられる。

- S K26 X14Y16に位置する。幅約10cm、深さ約10cmを測る。土師器破片が出土している。
S K17 X12Y17~18に位置する。幅約90cm、柱穴部分の深さは約18cm。土師器小片がある。
S K10 X12Y18に位置する。幅約60cm、深さ約20cmを測る。須恵器が出土している。
S K13 X6Y16に位置する。幅約100cm深さ約40cmを測る。須恵器が出土する。東側にあるSK14は遺物は出土していないが、深さ約80cmで、共に井戸とみられる。

3まとめ

以上の調査結果を要約し、今回の調査のまとめとしたい。

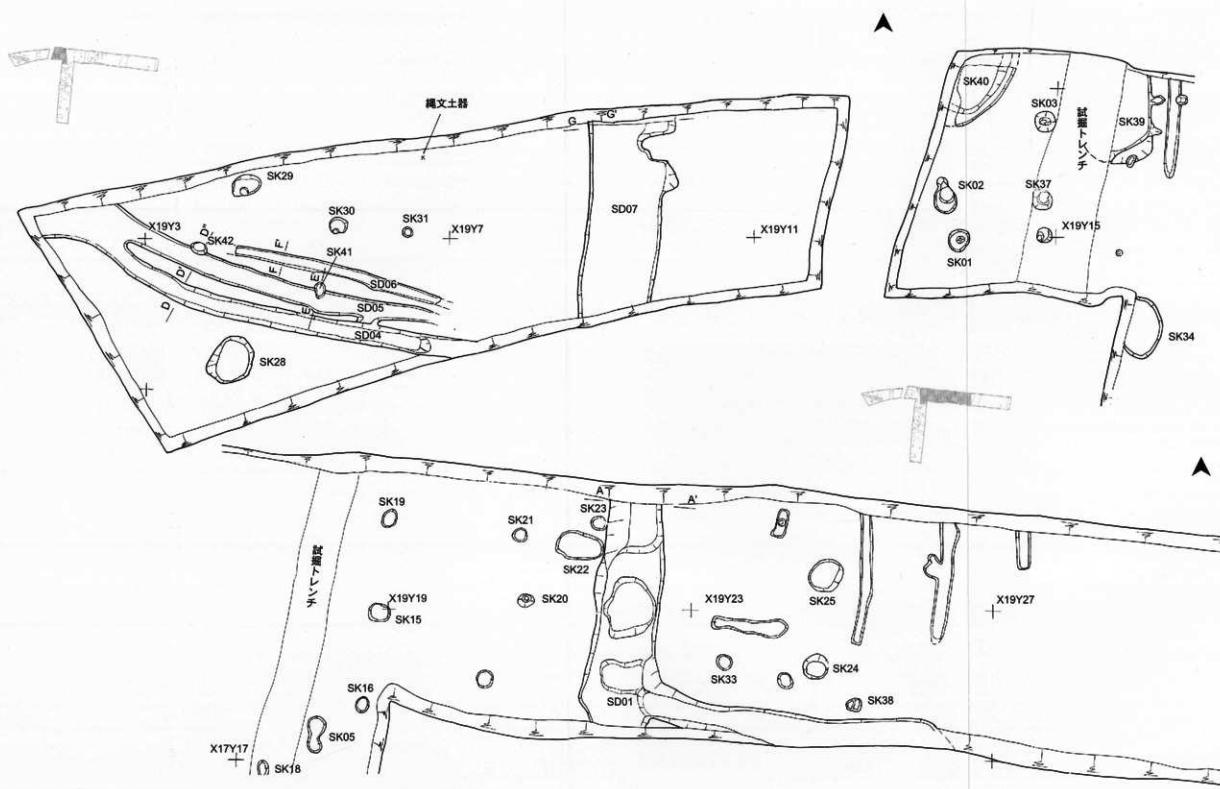
本江東遺跡は新潟市本江にあり、鍛冶川右岸、神通川左岸の沖積低地に立地する。標高は約0.9~1.5mである。現在、海岸汀線から約50mの海岸部に広がっているが、遺跡が存在した時代の海岸線は、現在よりも沖合にあったと思われる。

今回の調査において確認できた主な遺跡の所属時期は、奈良・平安時代、中世の2時期である。奈良・平安時代の遺物は、8世紀中葉から9世紀中葉に所属する。遺構はSK36、SK39のかまどとしての性格をもつとみられる土坑のほか、SD02やSD03のように南東から北西の流れをとる溝などがある。中世の遺物には、鎌倉~南北朝期、戦国時代期のものがある。南北朝と戦国時代の間および室町時代の遺物は少なく、中世期において、一時遺跡は低迷した時期があったとみられる。中世の溝はSD07、SD08などのように、現在の水路とはほぼ同軸の、南北に流れをとるようである。また、奈良・平安時代、中世の時期いずれも土鍤が多く出土しており、漁村集落としての遺跡の性格が伺われる。

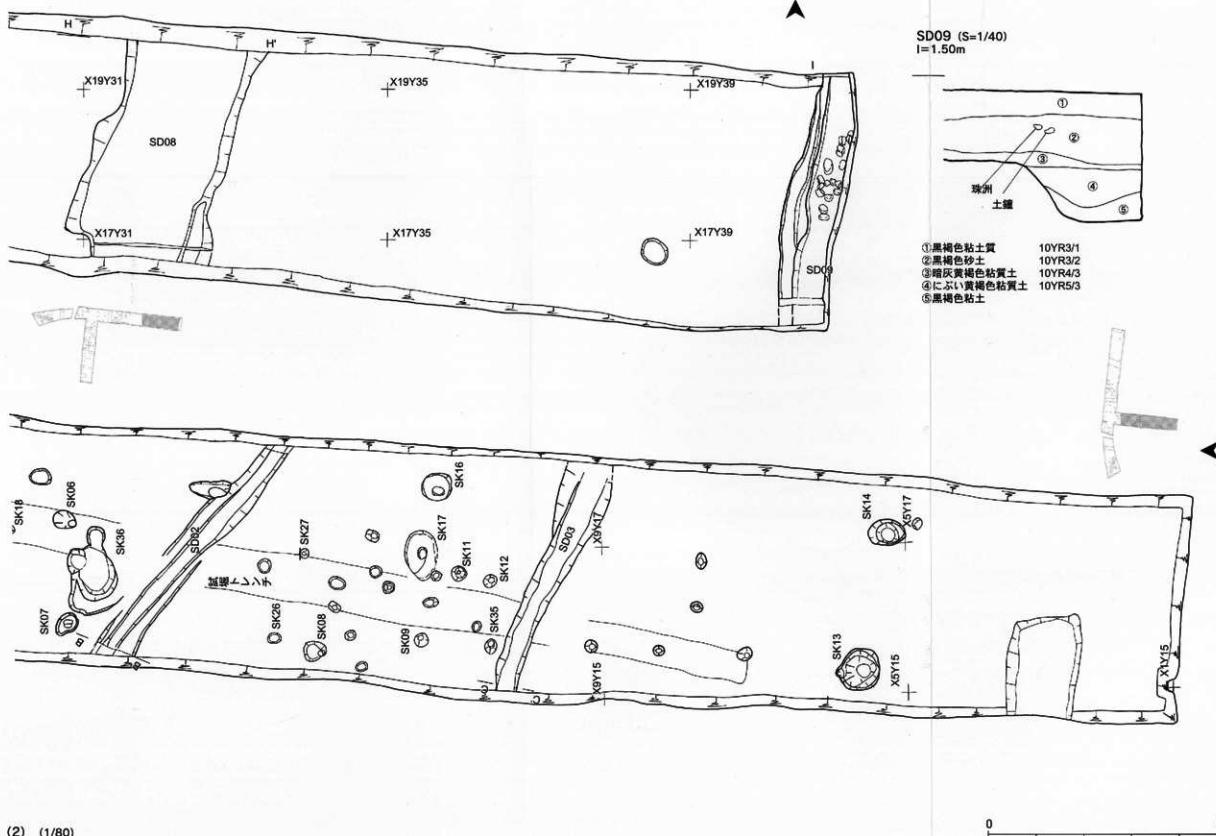
最後に調査区周辺の歴史的背景について若干ふれておきたい。今回の調査区西に位置する放生津潟北東部の新潟市針山一帯は、近世の貢垣庄域に含まれていることから、古代においては奈良西大寺領庄岡として知られる射水郡棟山庄域の可能性がある地域である。棟山庄はその田籍関係文書などから、8世紀中頃、768年~770年頃までに成立し、耕地經營が行われていたと考えられている初期庄園である。棟山庄を針山一帯に比定するなら、今回検出された8世紀中葉から9世紀中葉にかけての古代の集落は、中央の政策に基づいて開発が行われた地域の一角であったと推測される。しかし、8世紀前半頃に遡るとみられる遺物も少量みられるため、大規模な開発が行われる以前から小規模な開発があった可能性もある。その後、同地域が再開発された結果、中世において倉垣庄の一角に位置付けられ集落が形成されたのではないだろうか。

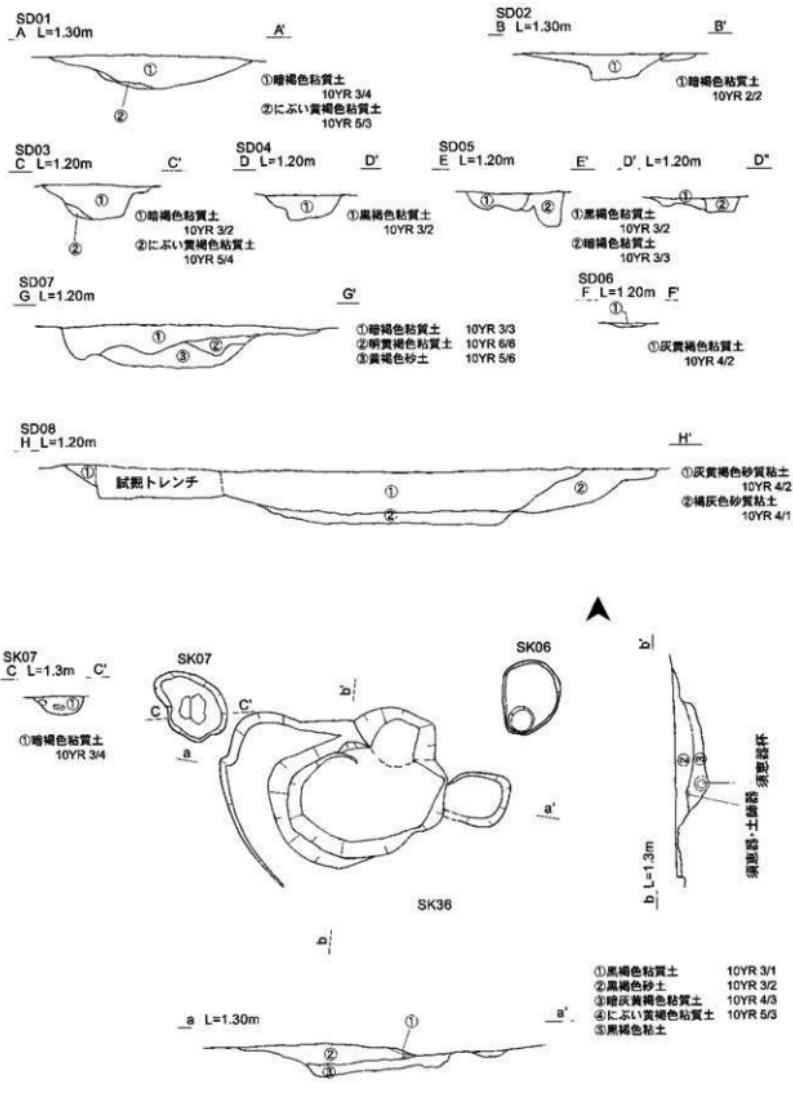
【参考文献】

- 宇野隆夫 1989『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』真陽社
岡崎卯一 1964『利波土師遺跡の調査』『放生津潟周辺の地学的研究第3集』富山地学会編
坂井誠一ほか 1979『角川日本地名人辞典 16富山県』角川書店
新潟市 1992『新潟市史 近現代』
新潟市歴史編さん委員会 1997『しんみなどの歴史』
新潟市教育委員会 2000『市内遺跡試掘調査概要』
富山市教育委員会 1999『富山市西方荒尾遺跡発掘調査概要』
富山県射水郡役所 1978『射水郡誌』
富山県埋蔵文化財センター 1993『富山県総合運動公園内遺跡発掘調査報告(3)任海遺跡・古倉A遺跡・古倉B遺跡』
富山県埋蔵文化財センター 1994『富山県総合運動公園内遺跡発掘調査報告書(4)古倉B遺跡』
郷土本江を語る会 1995『本江郷十史 第1集 本江八景』新潟市立本江公民館
吉岡康暢 1989『珠洲の名陶』珠洲市珠洲焼資料館
吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉岡弘文館

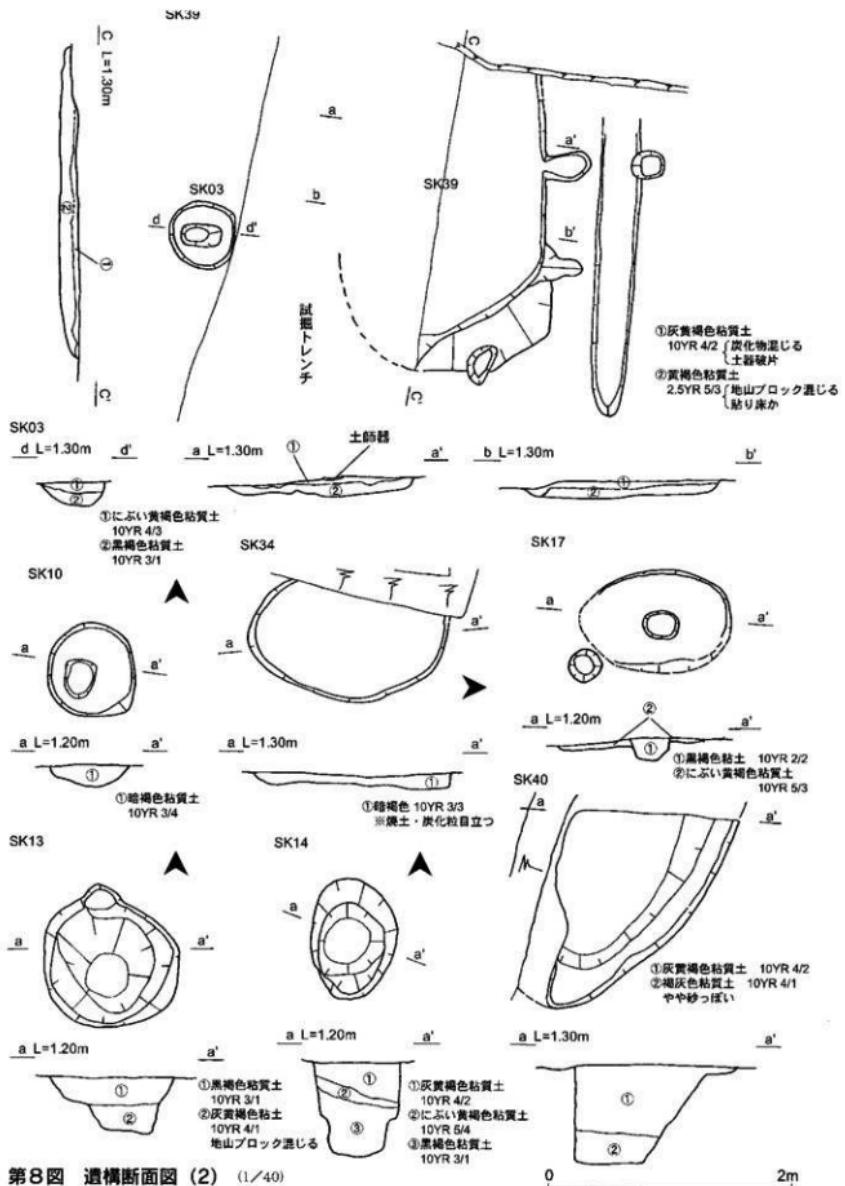


第5図 遺構平面図(1) (1/80)





第7図 遺構断面図 (1) (1/40)



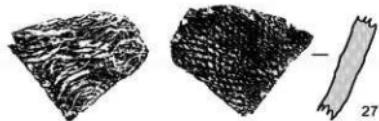
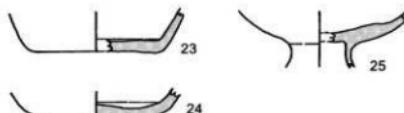
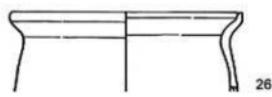
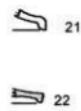
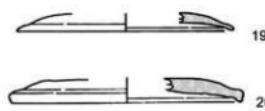
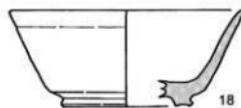
第8図 遺構断面図 (2) (1/40)

SD01

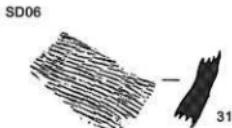
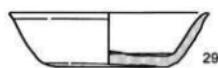


第9図 遺物図 (1) (1/3)

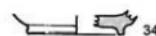
SD03



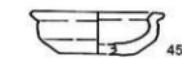
SD05



SD07



SD08

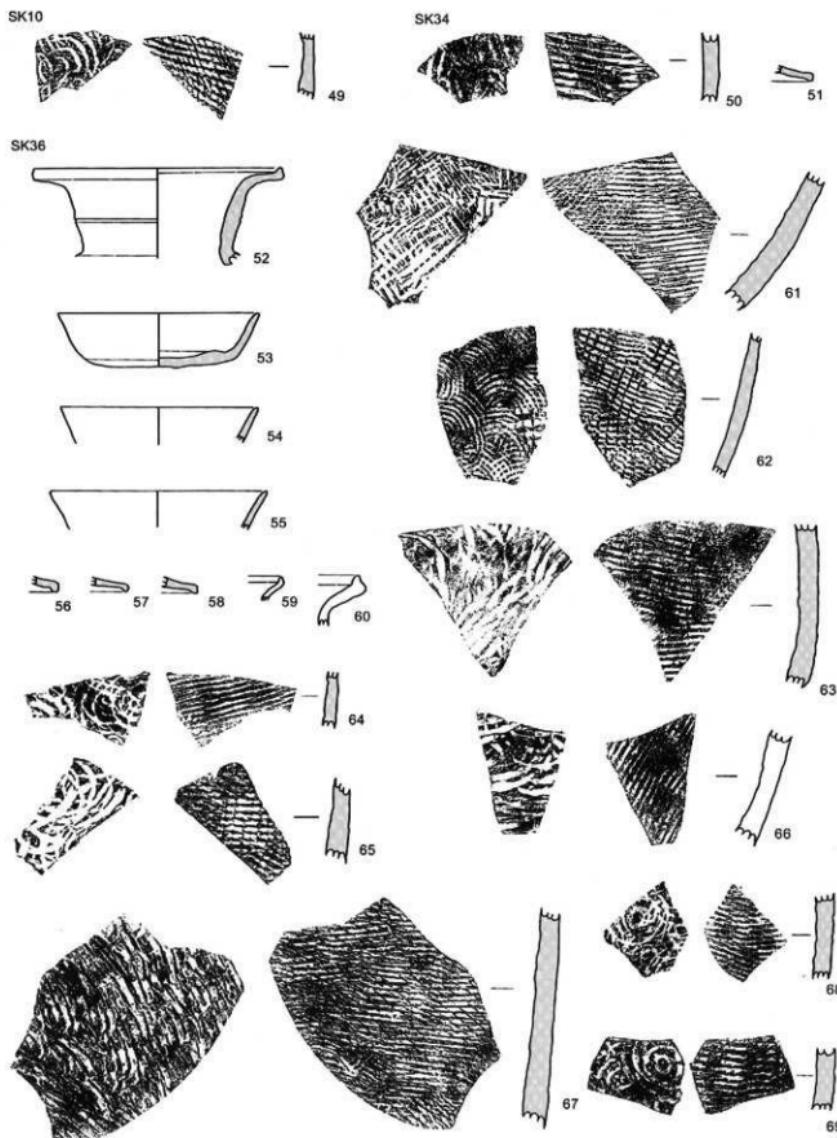


SK07



0 10cm

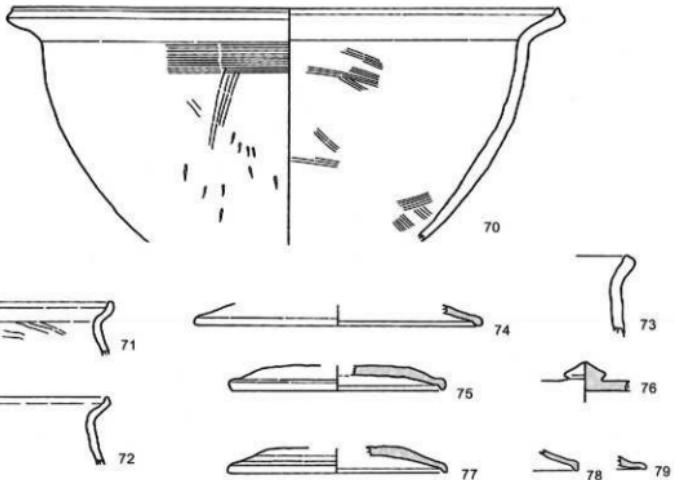
第10図 遺物図 (2) (1/3)



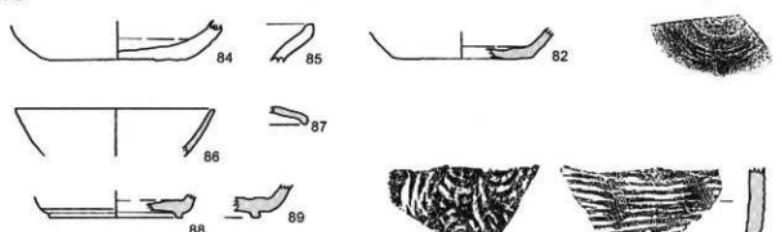
第11図 遺物図 (3) (1/3)

0 10cm

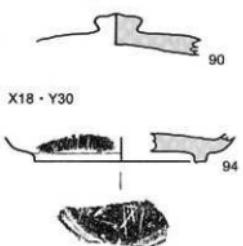
SK39



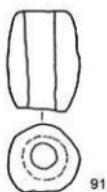
SK40



X17~21・Y2~7

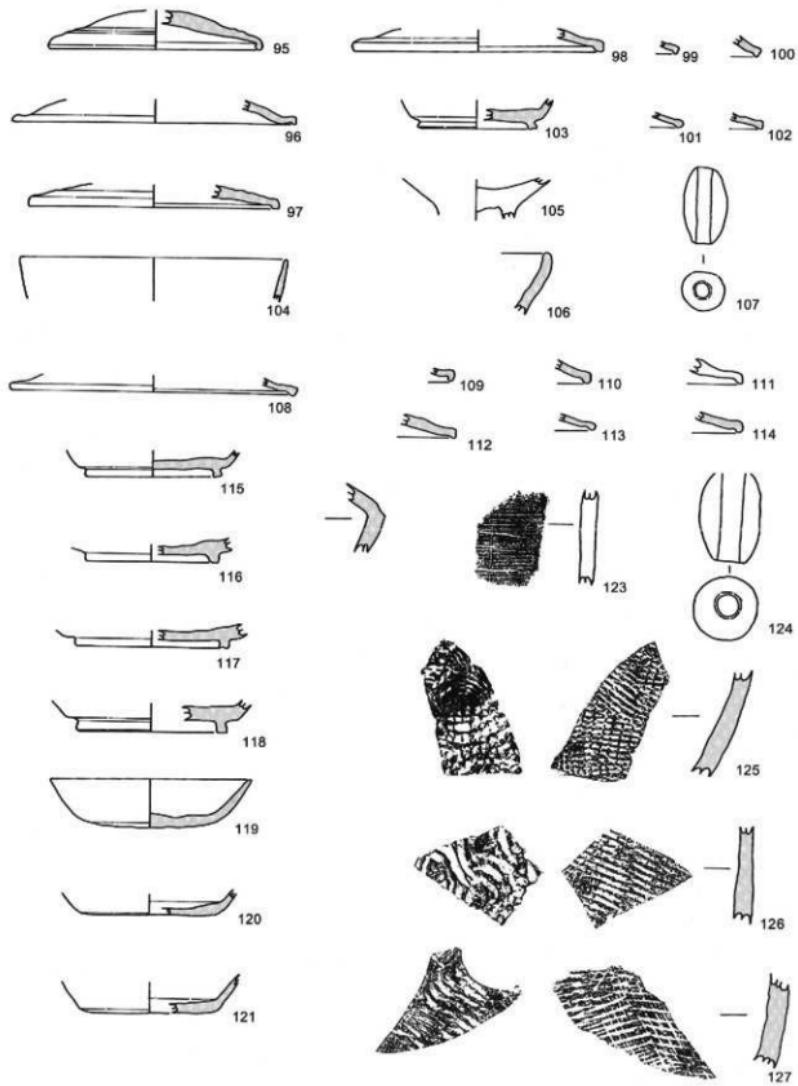


X18・Y30



第12図 遺物図(4) (1/3)

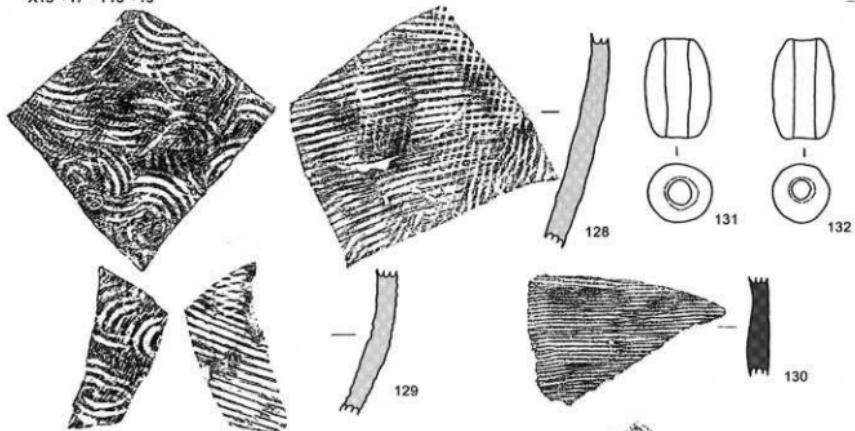
0 10cm



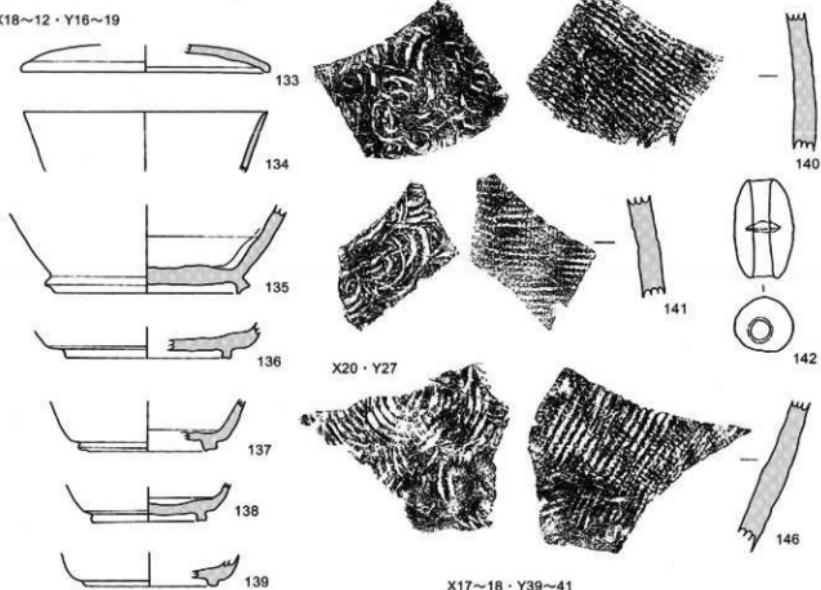
第13図 遺物図 (5) (1/3)

0 10cm

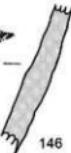
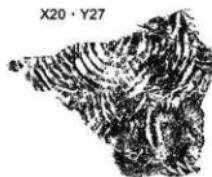
X13~17・Y16~19



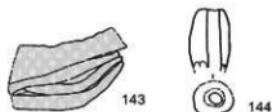
X18~12・Y16~19



X20・Y27



X17~18・Y39~41



第14図 遺物図 (6) (1/3)

0 10cm

遺物一覧表

番号	種類器種	口径 長径	底径 短径	高さ 孔径	重さ	外色	内色	特徴	遺構	座標	時期	備考
1	須恵器 台杯			95		灰白	灰白		SD01		9世紀	高台跡が残っている
2	須恵器 豆か壺					灰オーブ	灰白	外/平行印目のも尾部自然輪	SD01		タ	
3	須恵器 壺					暗青灰	暗青灰	外/平行印目 内/円形アテ具痕	SD01		タ	
4	須恵器 壺					灰オーブ	灰オーブ	外/平行印目 のちカキメ自然輪	SD01		タ	
5	須恵器 豆か壺					灰	灰	外/格子状印目 内/円形アテ具痕	SD01		タ	
6	須恵器 豆か壺					暗青灰	暗青灰	外/平行印目 内/円形アテ具痕	SD01		タ	
7	土鍤	62	52	14	110	灰	黄	灰	SD01		タ	
8	土鍤器 壺	230				浅黄橙	にふり頭輪	口縁部丸く肥厚し外へ折り返す	SD02		9世紀中	
9	須恵器 杯蓋					青	灰	青	SD02		9世紀	
10	須恵器 杯蓋					青	灰	青	SD02		タ	
11	須恵器 台杯					青	灰	青	SD02		タ	
12	須恵器 台杯		81			灰	白	白	SD02		タ	
13	須恵器 杯		132	88	34	明青灰	明青灰		SD02		タ	
14	須恵器 豆か壺					暗青灰	暗青灰	外/格子状印目か 内/円形アテ具痕	SD02		タ	
15	須恵器 豆か壺					暗青灰	灰オーブ	外/平行印目 内/円形アテ具痕	SD02		タ	
16	須恵器 豆か壺					青	灰	灰オーブ	平行印目のちカキメ 円形アテ具痕	SD02		タ
17	須恵器 豆か壺					青	灰	青	外/平行印目 内/円形アテ具痕	SD02		タ
18	須恵器 台杯	140	78	58		暗青灰	青	灰	SD03		タ	
19	須恵器 杯蓋	132				青	灰	青	SD03		タ	
20	須恵器 杯蓋	140				灰	灰	天井部平坦口縁部二角形	SD03		8世紀後	
21	土師器 杯蓋					浅黄橙	浅黄橙	口縁部が壘く立つ	SD03		8世紀前	
22	須恵器 杯蓋					青	灰	口縁部断面三角形	SD03		8世紀後	
23	須恵器 杯		98			灰	白	灰	SD03		9世紀前	
24	須恵器 杯		80			灰オーブ	灰オーブ		SD03		8世紀後	
25	須恵器 高杯					暗青灰	暗青灰	脚部堅密薄い	SD03		9世紀	
26	土師器 壺		280			灰	褐	灰黄橙	外面部焼付着	SD03		9世紀前
27	須恵器 豆か壺					青	灰	外/格子状印目 内/円形アテ具痕	SD03		9世紀	
28	珠洲 片口鉢					灰	白	鉢口粗	SD03		14世紀	
29	須恵器 杯	120	90	33		明青灰	明青灰		SD05		8世紀後	
30	須恵器 杯蓋					暗青灰	暗青灰	口縁部山形	SD05		8世紀	
31	珠洲 豆か壺					暗青灰	暗青灰		SD06		8世紀後	
32	須恵器 台杯		80			青	灰	青	SD07		8世紀	
33	須恵器 台杯		60			暗青灰	青	灰	SD07		9世紀	
34	須恵器 台杯		60			暗青灰	青	灰	SD07		タ	
35	須恵器 杯蓋	160				明青灰	明青灰	口縁部丸い	SD07		タ	
36	須恵器 杯蓋					明青灰	明青灰	口縁部丸い	SD07		タ	
37	須恵器 杯蓋					青	灰	青	SD07		タ	
38	須恵器 杯蓋					暗青灰	暗青灰	口縁部角張る	SD07		タ	
39	須恵器 豆か壺					青	灰	青	外/平行印目 内/円形アテ具痕	SD07		タ
40	須恵器 杯		85			青	灰	青	SD08		タ	
41	土鍤	66	39	15	95	灰	白	白	SD08		16世紀	
42	土鍤		35	13	70+	にふり壺	褐	灰	SD08		タ	
43	須恵器 豆か壺					灰オーブ	青	灰	外/平行印目 自然輪	SD08		9世紀
44	中世土解器 灯明皿	100	56	14		にふり壺	浅黄橙		SD08		16世紀	
45	瀬戸美濃 香炉	81	43	26		灰	白	灰	オーブ黄釉	SD08		タ

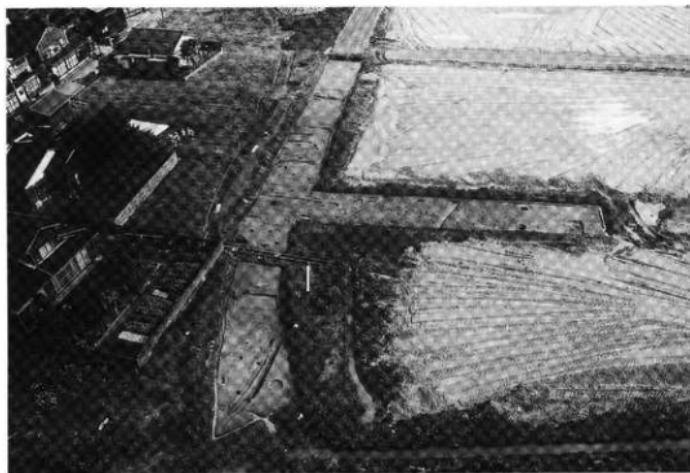
番号	種類	器種	山径 長径	底径 短径	周高 孔径	重さ	外色	内色	特徴	遺構	座標	時期	備考		
46	須恵器	杯蓋					青	灰	青	灰	SK06	9世紀	SD04か		
47	須恵器	鏡か壺					暗青灰	暗青灰	外/平行印目 内/円形アチ具痕	SK07		タ			
48	須恵器	鏡か壺					オーブ	オーブ	外/内/平行印目か	SK07		タ			
49	須恵器	鏡か壺					青	灰	青	灰	SK10		タ		
50	須恵器	鏡か壺					青	灰	青	灰	SK34		タ		
51	須恵器	杯蓋					青	灰	青	灰	口縁部丸い	SK34	8世紀後		
52	須恵器	長頸瓶	150				暗青灰	青	灰		SK36	8世紀			
53	須恵器	杯	123	88	33		浅黄橙				SK36		タ		
54	須恵器	杯	118				明青灰				SK36	8世紀後			
55	須恵器	杯	132				青	灰	青	灰	SK36		タ		
56	須恵器	杯蓋					青	灰	青	灰	SK36		タ		
57	須恵器	杯蓋					明青灰	明青灰			SK36		タ		
58	須恵器	杯蓋					青	灰	青	灰	口縁部二角形	SK36	タ		
59	土師器	甕					黄	褐	黄	褐	外/内面焼付着	SK36	9世紀前		
60	土師器	甕					浅黄橙	に赤	青	灰		SK36	8世紀後		
61	須恵器	甕					灰		灰	灰	オーブ	内/円形アチ具痕のち平行印目	SK36	9世紀	
62	須恵器	鏡か壺					青	灰	明青灰	外/格子状印目 内/円形アチ具痕	SK36		タ		
63	須恵器	鏡か壺					動か-波	暗青灰	外/平行印目 内/円形アチ具痕	SK36		タ			
64	須恵器	甕					青灰		オーブ	外/平行印目 内/円形アチ具痕	SK36	8世紀			
65	須恵器	鏡か壺					反オーブ	反オーブ	外/平行印目 内/円形アチ具痕	SK36		タ			
66	須恵器	鏡か壺					暗青灰	暗青灰	外/平行印目 内/円形アチ具痕	SK36		タ			
67	須恵器	甕					青	灰	青	灰	外/内/平行印目	SK36	8世紀後		
68	須恵器	鏡か壺					明青灰		反オーブ	外/平行印目 内/円形アチ具痕	SK36	8世紀			
69	須恵器	鏡か壺					動か-波	暗青灰	外/平行印目 内/円形アチ具痕	SK36		タ			
70	土師器	鍋	330				褐	黄	褐	黄	外表面焼付着	SK39	8世紀後		
71	土師器	甕	148				に赤	青	に赤	青	口縁部内面焼付着	SK39	9世紀前		
72	土師器	甕	140				に赤	青	に赤	青	口縁部斜く立つ 焼付着	SK39	タ		
73	土師器	長胴甕					灰	白	灰	白		SK39	8世紀後		
74	須恵器	杯蓋	172				青	灰	青	灰	口縁部丸い	SK39	9世紀		
75	須恵器	杯蓋	136				青	灰	青	灰	天井部山形で口縁部角張る	SK39		タ	
76	須恵器	蓋	25				明青灰	明青灰			SK39		タ		
77	須恵器	杯蓋	130				青	灰	青	灰	天井部山形で口縁部角張る	SK39		タ	
78	須恵器	杯蓋					灰	白	灰	白	口縁部二角形	SK39	8世紀後		
79	須恵器	杯蓋					青	灰	青	灰		SK39	9世紀		
80	須恵器	杯	150				暗青灰	青	灰			SK39	8世紀後		
81	須恵器	台杯	112	64			暗青灰	青	灰			SK39		素面剥がれて いる	
82	須恵器	杯	80				灰	白	明青灰			SK39	9世紀		
83	須恵器	杯	68				明青灰	明青灰				SK39	8世紀後		
84	土師器	碗	88				褐	灰	灰	白		SK40	タ		
85	土師器	甕					灰	黄	灰	黄		SK40	タ		
86	須恵器	杯	120				灰	黄	灰	黄		SK40	9世紀		
87	須恵器	杯蓋					反オーブ	反オーブ				SK40	タ		
88	須恵器	台杯		80			暗青灰	暗青灰				SK40	タ		
89	須恵器	台杯					青	灰	青	灰		SK40	8世紀		

番号	種類	器種	口径 長径	底径 孔径	重量	外色	内色	特徴	遺情	座標	時期	備考	
90	須恵器	蓋		28		明青灰	明青灰			X18Y4-5	9世紀		
91	上鍤		60	43	15	11	浅黄橙	浅黄橙		X18Y7	16世紀		
92	須恵器	壺か蓋				4	青	灰	明青灰	平行叩口のちカキメ/円形疔具痕	X19Y5	8世紀後	
93	珠洲	壺か蓋					灰	白	印口11条/3cm		X19Y5	14世紀	
94	須恵器	台盤か	114			青	灰	青	灰		X18Y30	9世紀前	
95	須恵器	杯蓋		130		灰	白	灰	白	天井部が山形で口縁部が角張る	X18Y17	タ	
96	須恵器	杯蓋		171		青	灰	灰	白	口縁部角張り折り返る	X21Y16	9世紀	135と同じ出土
97	須恵器	杯蓋		152		青	灰	青	灰	口縁部角張る	X20Y16	タ	
98	須恵器	杯蓋		150		青	灰	青	灰	口縁部角張る	X18Y16	タ	
99	須恵器	杯蓋				灰	白	灰	白	口縁部三角形	X21Y18	8世紀後	
100	須恵器	杯蓋				カ-灰	カ-灰	カ-灰	カ-灰	口縁部角張る	X20Y16	タ	
101	須恵器	杯蓋				灰	白	青	灰	口縁部角張る	X19Y7	9世紀	
102	須恵器	杯蓋				灰	白	灰	白	口縁部角張る	X21Y18	8世紀後	
103	須恵器	台杯		70		青	灰	青	灰		X18Y17	9世紀	
104	須恵器	杯		16	8	灰	白	褐	灰		X9Y18	8世紀後	
105	上師器か	高杯				灰	黄	灰	黄	碟多い	X19Y16	タ	
106	須恵器	鉢か				青	灰	暗青灰			X21Y9	9世紀前	
107	土鍤		47	25	9	に	灰	壷	に	小型	X18Y16	中板付	
108	須恵器	杯蓋			25	青	灰	暗青灰	灰	口縁部角張る	X15Y17	8世紀後	
109	須恵器	杯蓋				青	灰	青	灰	口縁部三角形	X14Y18	8世紀	
110	須恵器	杯蓋				青	灰	青	灰	口縁部角張る	X16Y17	タ	
111	土師器	杯蓋				に	灰	壷	浅黄橙	口縁部やや角張る	X15Y18	9世紀	
112	須恵器	杯蓋				青	灰	明青灰	灰	口縁部やや角張る	X17Y19	8世紀	
113	須恵器	杯蓋				明青灰	明青灰	明青灰	灰	口縁部丸い	X17Y19	9世紀	
114	須恵器	杯蓋				青	灰	青	灰	口縁部やや角張る	X15Y18	タ	
115	須恵器	台杯		81		青	灰	青	灰		X14Y16	タ	
116	須恵器	台杯				浅黄橙	灰	白			X13Y16	タ	
117	須恵器	台杯		91		青	灰	青	灰		X14Y16	タ	
118	須恵器	台杯		90		青	灰	明青灰			X13Y17	8世紀	
119	須恵器	杯		80		浅黄橙	浅黄橙				X13Y18	タ	
120	須恵器	杯		79		青	灰	明青灰			X14Y16	9世紀	
121	須恵器	杯		71		青	灰	青	灰		X13Y18	8世紀	
122	須恵器	長首瓶				青	灰	灰			X16Y17	8-9世紀	135と同じ出土
123	土師器	壺か				に	灰	壺	に	外血溜描き	X16Y17	タ	
124	土鍤		60	36	13	灰	褐	灰	褐	碟多い	X17Y19	タ	
125	須恵器	壺か壺			69+	青	灰	青	外	平行格子叩口 内/円形疔具痕	X16Y17	タ	
126	須恵器	壺か壺				カ-灰	カ-灰	カ-灰	外	平行叩口 内/円形疔具痕	X15Y17	タ	
127	須恵器	壺か壺				暗	灰	灰	外	平行叩口 内/円形疔具痕	X13Y17	タ	
128	須恵器	壺				灰	灰	白	外	平行格子叩口 内/円形疔具痕	X14Y16	8世紀	
129	須恵器	壺か壺				灰	白	明青灰	外	平行叩口 内/円形疔具痕	X16Y17	タ	
130	珠洲	壺か壺				青	灰	青	灰	印口13条/3cm	X15Y16	13世紀	
131	土鍤		60	39	14	灰	黄	灰	黄		X14Y16	8-9世紀	
132	土鍤		60	38	12-85	に	灰	青	青	碟多い	X13Y16	タ	
133	須恵器	杯蓋		150		暗青灰	青	灰	口縁部丸い		X12Y18	9世紀	

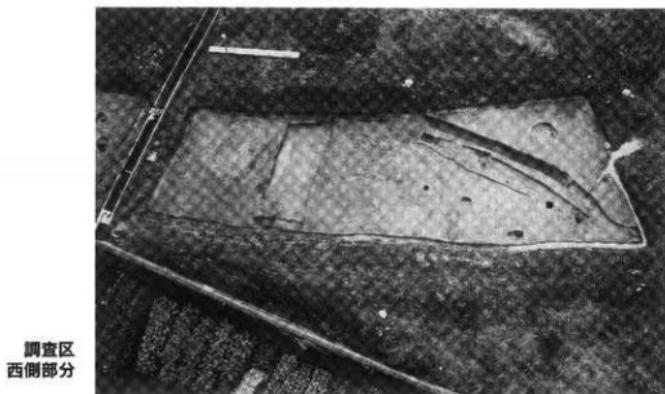
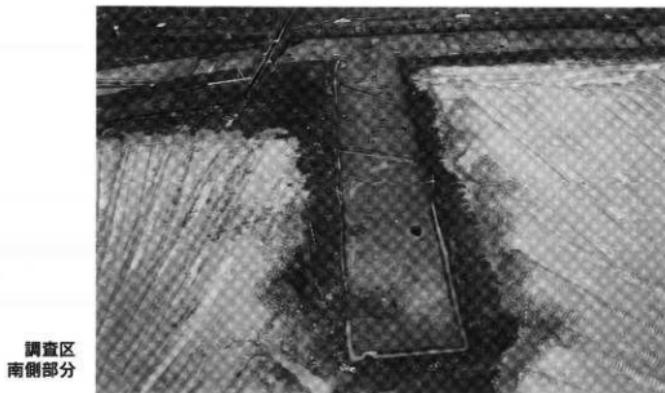
番号	種類	器種	口径 及往	底径 短径	唇高 孔径	重量	外色	内色	特 徴	遺構	座標	時期	備考
134	須恵器	杯	144				暗青灰	青灰			X11Y18	9世紀	
135	須恵器	壺		122			青灰	黒	漆塗/内面漆付着		X12Y16	8世紀後	SDXG34+
136	須恵器	台杯		10			青灰	明青灰			X11Y18	△	
137	須恵器	台杯		83			明青灰	明青灰			X10Y17	9世紀前	
138	須恵器	台杯		80			青灰	明青灰			X11Y18	△	
139	須恵器	台杯		80			青灰	青灰			X10Y17	△	
140	須恵器	壺か・壺					暗灰	灰白	外/平行叩目 内/円形アチ具痕		X8Y18	△	
141	須恵器	壺か・壺					灰	灰白	平行叩目のちカキメ/円形アチ具痕		X9Y18	△	
142	土鍾		59	35	12	70	灰	黄	灰黄		X8Y18	8世紀	
143	須恵器	壺、杯					灰白	暗灰	東ね焼により着色している		X10Y17	8世紀後	
144	土鍾				7	15+	黄褐	黄褐	小型		X9Y18	9世紀前	
145	土師器	小型壺					赤褐	にふ・褐	内外面漆付着		X11Y18	△	
146	須恵器	壺					明青灰	明青灰	外/平行叩目 内/円形アチ具痕		X20Y27	△	
147	珠洲	片口鉢					灰	灰	口縁真っ直ぐに立つ		X20Y41	鐘倉	

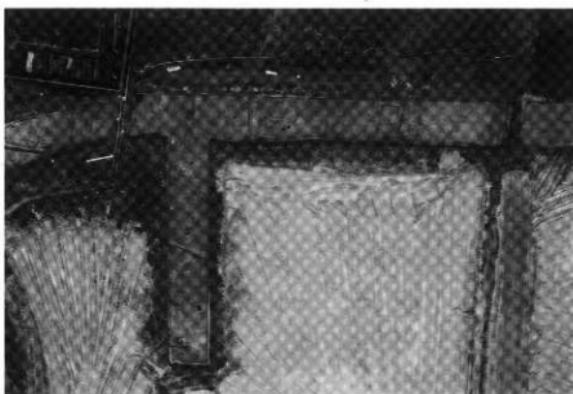


調査区全景 南東から

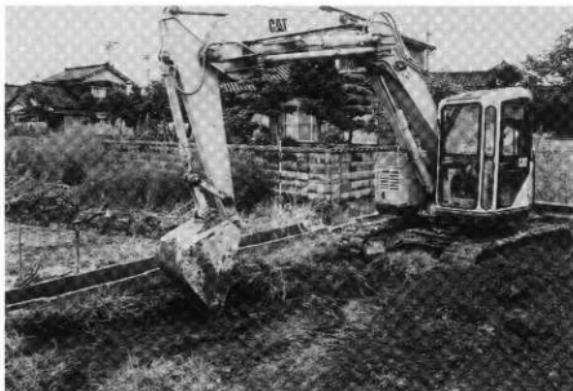


調査区全景 西から





調査区
中央・東側部分



調査風景
表土徐去



調査風景
測量

調查風景
遺構精查

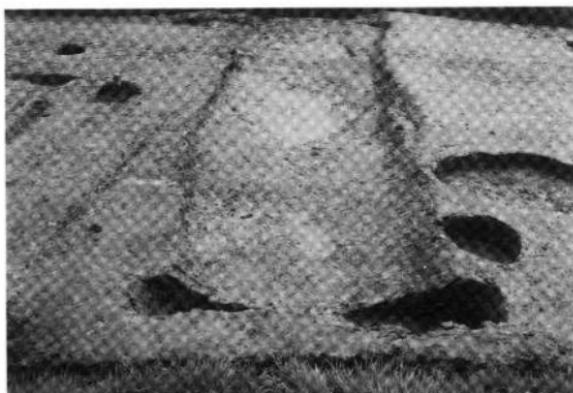


調查風景
遺構掘削



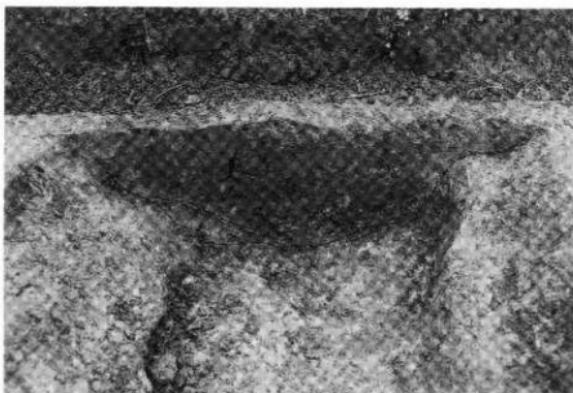
調查風景
排水作業







SD02
東から



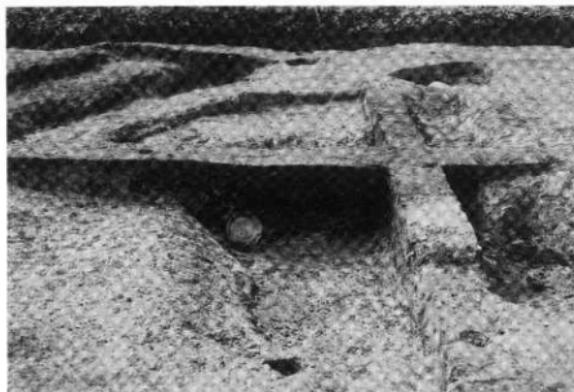
SD03
西側断面



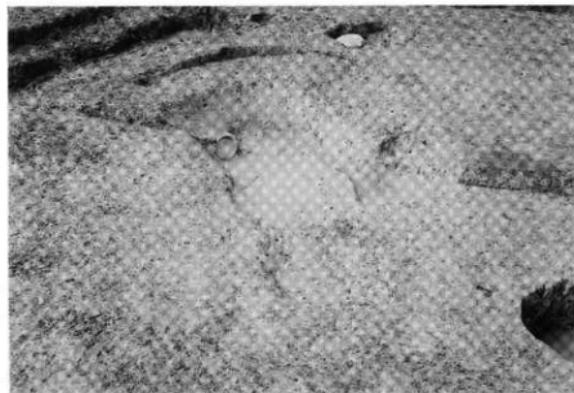
SD09
南から



SK36
東西斷面



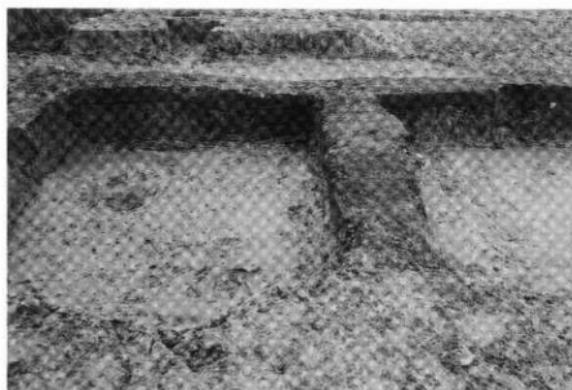
SK36
南北斷面



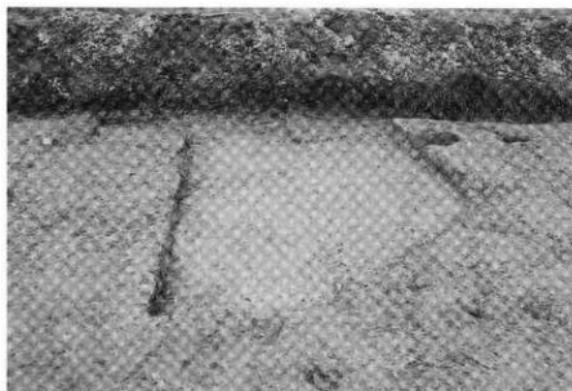
SK36
完掘状况



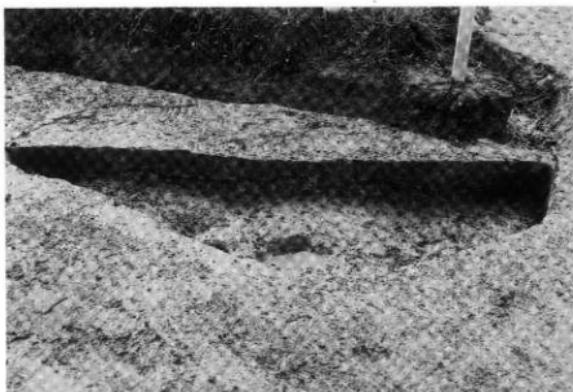
SK39
東西断面



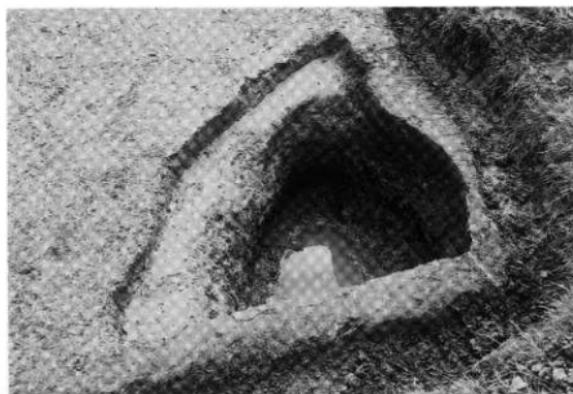
SK39
南北断面



SK39
完掘状况



SK34



SK40

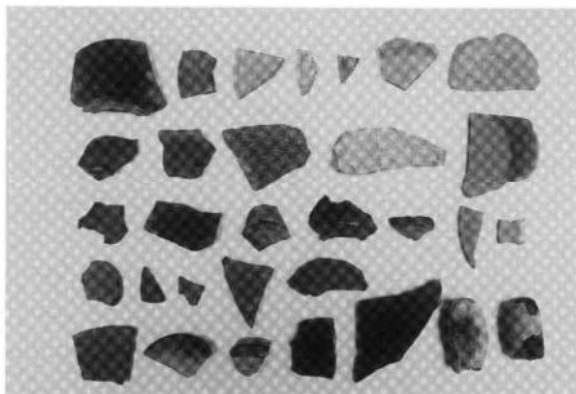


SK14

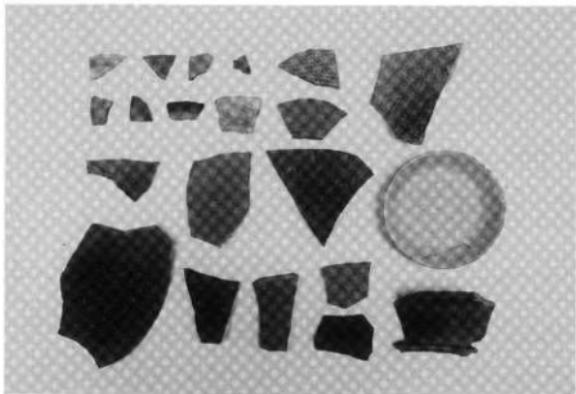
第9図 遺物

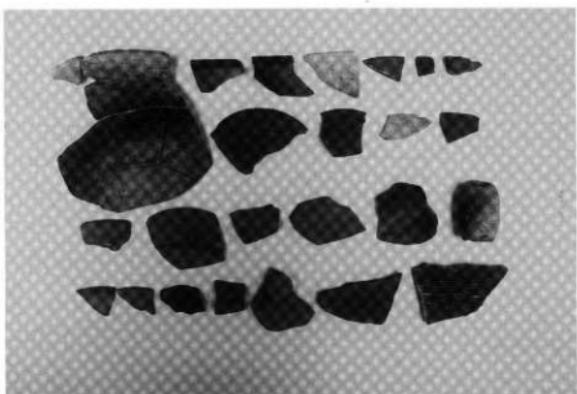


第10図 遺物



第11図 遺物

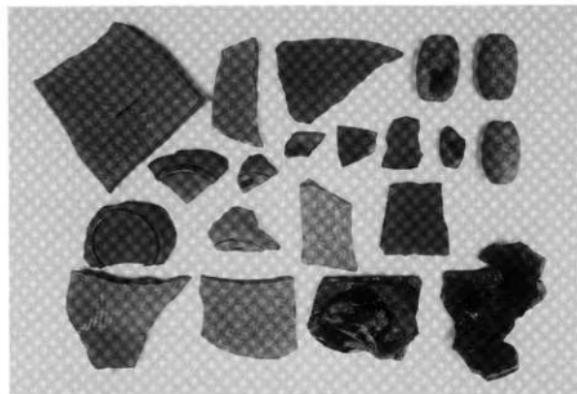




第12図 遺物



第13図 遺物



第14図 遺物

報告書抄録

ふりがな	とやまけん新湊市 ほんごうひがしいせきはっくつちょうきがいよう							
書名	富山県新湊市 本江東遺跡発掘調査概要							
編著者名	宗 融子							
編集機関	新湊市教育委員会							
所在地	〒934-8555 富山県新湊市本町二丁目10番30号 TEL 0766-82-8312							
発行機関	新湊市教育委員会							
所在地	〒934-8555 富山県新湊市本町二丁目10番30号 TEL 0766-82-8312							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
本江東遺跡	富山県 新湊市本江	016203	016203	36°45'04"	137°10'04"	19990928 19991116	690m ²	土地区画 整理事業
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
本江東遺跡	集落	古代 ～ 中世		溝 上坑	土師器 須恵器 珠洲焼 土鍋			



平成12年3月31日発行

富山県 新湊市内遺跡発掘調査概要

編集 新湊市教育委員会

発行 新湊市教育委員会

富山県新湊市本町二丁目10番30号

印刷 ルタニグチ印刷

